

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

はしがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2004-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 太田, 斎, Ota, Itsuku メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1037

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



は し が き

第3号で三号雑誌の資格ができたと言ったが、何とか第5号を出すまでに至った。継続すると少しは知名度も出て来て、共同研究を希望する学外者（海外の研究者を含む）も現れるようになってきた。嬉しいことである。本学がアジア諸語研究の情報発信地の一つとして機能するように今後も頑張っていきたい。今回は対象言語としては中国語、日本語、ウイグル語、ベトナム語、チベット語が含まれ、方法論的には記述研究、文献学的研究、対照研究がある。日本語—中国語、ベトナム語—日本語の対照研究は言うに及ばず、ウイグル漢字音の研究も中国語—ウイグル語と複数の言語を扱うもので、バラエティがあるものになったと思う。

以下、本学関係者については敬称略でざっと本号所載の論文の紹介をしよう。今回は八篇の論文が収録されている。武内、西田論文は敦煌出土の羊の骨に刻まれたチベット語占い文献の研究である。この種の占いは現代においてはナシ族の間では見られるらしいが、チベットにおける流伝は聞かない。橋本論文はウイグル漢字音の研究で、今回扱ったものは元朝期の仏典の難字に漢字による音注が施されている資料で、これまで先行研究がなかったものである。下地論文は中国語—日本語対照研究である。かねてより追求している視点の違いが両言語における文法的特徴の差異にどのように反映しているかといった問題を取り扱っている。本人の弁によると、着想を得てから締め切りまで間が無く、論考に十分でないところがあるということである。今後、続編を発表することで、研究を完成させることを望む。中国に愚か者が、苗が早く育つようにと引っ張って、逆に苗をだめにしてしまうという、笑い話があったと思うが（中国に限らない？）、今回原稿完成を急かせた班長がその愚か者を演じたことになったとしたら、大いに反省せねばならない。小高氏は西夏語の研究でこれまで論文を発表している研究者だが、今回は現地調査に基づく中国語甘肅方言の音韻体系

を紹介してくれた。氏についてもやはり台湾で日本語を教えるという仕事を始めて間もないところで、十分な時間がとれない中で書き上げたために、かなり短いものになってしまった。甘肅方言のデータは希少なため、それでも有用であることは疑い無い。ぜひこの先、続編で語彙、文法についても紹介して、全貌を明らかにしてもらいたいと思っている。隴を得て更には蜀を望まず、班長は氏に隴を極めることを望む。楊秋沢は山東省東営市にある勝利油田師専で教鞭を執っている、山東方言研究者である。これまで2, 3, 4号に論文を執筆している（共同執筆）。今回の論文は東営市一帯の字音に見られる内部差異に関する報告である。太田論文は浙江省縉雲方言の音韻体系の紹介である。1998年に調査し、調査しっ放しが常の太田にしては珍しく早めに論文の形に纏めてあった。本来、加工の上で『処衢方言研究』（曹志耘氏らと共著 好文出版 2000.3）の一部となるはずであったのだが、種々の理由で削ってしまった。太田としては改めて紹介するだけの価値ある方言であると信じている。孫立新氏は現在中国陝西省社会科学院の助教授（中国では研究所所属の場合は副研究員という職名で呼ばれる）で、中国西北方言の研究者である。これまでに『戸県方言研究』という記述研究の書を発表している。今回の論文は班長の好みのタブーワードに関するものである。中国の方言地理学研究に寄与するところが大きい。

2003年11月30日

アジア諸語の通時的、共時的研究

研究班代表 太 田 斎